

直進アシスト付きトラクター × スリップローラーシーダー 搭載型シーダーで、大麦の播種・施肥を効率化



直進アシスト付きトラクター + スリップローラーシーダー



搭載型シーダー

直進アシスト付きトラクター



- スリップローラーシーダー (Niplo 松山株式会社)
強制駆動のスリップローラーで播種深度安定の高機能シーダー
- 搭載型シーダー (Niplo 松山株式会社)
複数のロータリーに装着可能 大規模農家対応の高機能シーダー

お客様の声

経営規模 130ha

・ 水稻:90ha(10品種 乾田直播)

・ 大豆:25ha

(目標200ha)

・ 大麦:15ha(水稻早生収穫後のほ場に9月下旬~10月上旬に播種)

株式会社 **あつ石**

(石川県白山市) 平地農業地帯



Q 導入のきっかけ、使い方を教えてください。 取締役 新田義恭氏

A 当初、スリップローラーシーダー1台で回していましたが、経営規模が100haを超えた頃に、搭載型シーダーを導入しました。

基本は、水稻早生種を収穫後、一度耕起し、その後にスリップローラーシーダーで播種、施肥を行います。ローラーが強制駆動なので、より安定した播種が行えます。

作業上、どうしても事前に耕起が行えない場合は、耕起、播種、施肥が一発で行える搭載型シーダーを使うことが多いです。

Q 導入の効果をどのようにみていらっしゃいますか。

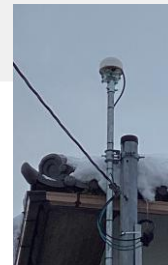
A 大麦の播種は、この2機のシーダーを3台のトラクターで回し、半日2haの作業量で1週間程度で行っています。

近年は雨も多く、作業時間が限られるので、効率的に播種・施肥が行え重宝しています。また、本機は水稻の乾田直播、大豆の播種にも使え、稲・麦・大豆の大規模経営には欠かせない作業機です。

直進アシスト付きトラクターは、自社でRTKを装備して、より精度の高い作業が行えるようにしています。

Q 今後、規模拡大をされるにあたっての課題を教えてください。

A 今後、更なる規模拡大を志向しているので、自ずと大麦の面積も拡大することとなります。作業をより効率的に行うためにも、基盤整備、畦取り等による、ほ場1枚当たりの面積拡大は不可欠ですね。



自社のRTK